「地域メディア演習」受講者座談会

宇都宮大地域デザイン科学部

宇都宮大学に4月から設置された地域デザイン科学部。地域貢献を目的として3学科からなる。そのうち、コミュニティデザイン学科の学生を主体とした科目「地域メディア演習」は、地域情報を発掘・取材し、本紙栃木版「とちぎキャンパる」（毎月第4火曜日）やネットで発信していく意欲的な講義だ。第1期生となる受講者20人のうち4人（男女各2人）に、学生生活へのそれぞれの思いを聞いた。（聞き手は、小川一・毎日新聞総合メディア戦略担当取締役。構成は、内山勢とちぎキャンパる編集長。敬称略）

問い合わせは：tochigi-campal@mainichi.co.jp

とちぎキャンパる

情報発信力磨きたい

座談会を終えて記念写真に収まる、左から北條さん、小松さん、聞き手の小川、大森さん、熊田さん＝宇都宮大で

北條沙奈（ほうじょう・さな）静岡県伊東市出身
小松友広（こまつ・ともひろ）那須烏山市出身
大森悠羽（おおもり・ゆう）宇都宮市出身
熊田絢（くまだ・あや）福島県郡山市出身

——地域デザイン科学部は、地元大学の地域貢献という役割がくっきりと出ている。地域を思う大学で育ちたいと思います。地元で働く地域の発展に理由は？

北條　出身が静岡県伊東市で、海が近くても、隣の海洋市より知られていない。観光地としてさらに発展させていくために、他の地域を思う大学で育ちたくりを学んだ後は、伊東に帰り地域の発展に貢献したい。

熊田　福島はまだ震災の復興が進まず、まだ仮設住宅もあり、残っている。地域デザインでなにかやったり、街づくりができるかを学びたい。

大森　この学部でさまざまな分野を学び、生活の中で自然にいろいろな形で感じをしたいと思った。

小松　コミュニティデザインなので、いろんなことがコミュニケーションを通じて学んでいきたい。大学を卒業したときは、今の自分よりはるかによいコミュニケーションをとれるようになりたい。

——大学ではサークル活動や趣味がしっかりせていくために、他の学部では、地元貢献という役割がくっきりと出ている。地元でどんな人材を育てようとしているのか。

大森　人のためになりたいと思っているのです。ボランティアのサークルに入りたい。

——北條さん以外、自宅通学？

大森・小松・熊田　はい。

熊田　郡山から新幹線で通っています。

——郡山は震災のときは大丈夫だったか？

熊田　一つの時で、停電や断水があって、テニス部の部活が放射線の影響で制限された。3年間、放射線の積算量が計算されている。

——さきほど復興の街づくりという話が出ましたが、4年間の学生生活での目標はありますか？　夢も含めて。

熊田　町が復興していないというのが悔しい。原発事故も外で悪いイメージが付いているので、英語をもっと勉強して、海外にも現状を発信していきたい。

小松　ミクロの視点でもマクロの視点でも、いろんな分野で学びたいと思っています。

——今買いたいものはありますか？

小松　買いたいというよりは、自分のやりたいことに関してどなたさんお金を使っていきたいかなと考えています。たくさんお金があるのなら、いろんな場所に行ってみたい。

北條　電車の切符。高校時代の友人が北は北海道から南は九州まで全国にいるので、友達のところを訪問したいです。

大森　一日ギターを弾いて音楽を聴いていたい。——はいかがでしょう？

熊田　腕時計を買いたいな、安いのしか持っていないので。ペビーGを買いたい（笑い）。

大森　ギター機材とライブに行きたい。

——それ、何をしたいですか。

小松　めいっぱい遊びたい。大学に入って人間関係が広がったので、その人たちとのんびりすごく楽しい。一緒にいろんなことをやっていきたい。

北條　24時間だと地元に帰るのは厳しいので、取りあえず、掃除やお料理など家事をゆっくりしたい。

熊田　郡山から通っているので中高の友達と会ったりしていない。友達と会って遊びたい。

大森　ギターを情報をつなげて使って弾いて音楽を聴いていたい。——はいかがでしょう？

熊田　高校の部活で地方発信するときに、どういう人たちに向けて発信していきたいですか？

北條　学科の方は、関係するさまざまな人の、特に学科を学ぶ高校生に学科の魅力を伝えられるような内容にしたい。個人の方は、自分が学んだことを活用した形で対して発信したい。高校の先生にもそういうのを期待している言われた。

——最後に好きな言葉や座右の銘を。

小松　自分は中庸を目指しています。

熊田　Pとしていかに大切にしていきたいと思うのの間。好きな言葉は、「仲間」。

北條　「変革せよ、変革を迫られる前に」。

大森　僕の好きなバンドの人が言った言葉で「あしたが人生のピークかもしれない」。

小川　この演習、学びを選んだ学生たちなどではありませんが、自分が言った言葉が、皆さん、きちんと自分の責任を背負いながら、地に足をつけて、未来を見つめて進んでください。若いみたちが大学で学んだことを、ふるさとに還元しようという思いを胸を打たれました。これからもがんばってください。ありがとうございました。

編集部から

先日、社会保障学者、法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科教授の湯浅誠氏の授業を見学させてもらった。220人が受講する大教室で驚きがない。「湯浅ゼミ」から聞いたから？　テーマイ社会問題」をテーマに、4～5人のグループになって学生同士でピーチをして、それを評価もする。これは寝る暇もないだろう。緊張感が感じる大教室で大いに学ぶものがあった。【内山勢】

言いたい！　自分流ギョーザの食べ方

地域メディア演習を受講している学生に聞きました。

▼ギョーザのタレを、しょうゆ6割、酢3割、ラー油1割を調合して作っています（絢）

▼私はギョーザを食べる時、酢だけを使う。手作りショウガ酢はギョーザがより美味！（友）

▼揚げギョーザは、ダイコンおろしにポン酢で食す！（羽）

▼家族でホットプレートを囲んで、おしゃべりしながら食べる。▼ミートソースをギョーザの皮に包んで、粉チーズにつけて食べます（友）

▼ギョーザのあまった具を炒め納豆にいれて食べるのが好きです（友）

▼家でギョーザを作って食べる時、チーズとか入れるとおいしい。具の入れ過ぎ注意！（羽）

▼ギョーザを酢じょうゆで食べた後に、そのつけダレを白飯にかけて食べる！（友）

小学生の発想に驚き

学生こらむ

いとう・りょうま　那須塩原市出身。趣味はサッカー観戦。「勝ったものが強いという考えのもと、生きてます」

最近、毎日新聞のニュースサイトで、大阪市内の小学校の4年生男子に働いた将来の夢の3位に、ある職業がランクインしたことを知った。「ユーチューバー」。実は、ユーチューブ上で生計をたてている人は、ごく一部だけ。とはいえ、ユーチューブが大きな影響力を持っていることは事実である。好きなことを動画にして投稿し稼いでいこうという発想には学ぶべきところがあると思う。私も自分が持つ特色をうまくいかせば発信できるような人になりたい。【宇都宮大・伊藤良哉】

懐れた職業に、中には勉強をしないで、動画投稿で稼いでいこうという子供まいるそうだ。おそろしいユーチューバーは深くしてもうかるものだと思っているのだろう。確かに、ユーチューブのキャッチフレーズは「好きなことで、現金を稼ごう」だが、現実はそう甘くない。実際動画投稿を行って生計をたてている人は、ごく一部だけ。

ユーチューブ上で地元の人たちに向けて発信していきたい。

熊田　高校の部活の「短」。まことによい。自らを信じ、友を信じ、明日を拓くの意味。

大森　僕の好きなバンドの人が言った言葉で「あしたが人生のピークかもしれない」。

小川　この演習、学びを選んだ学生たちなどではありませんが、自分が言った言葉が、皆さん、きちんと自分の責任を背負いながら、地に足をつけて、未来を見つめて進んでください。若いみたちが大学で学んだことを、ふるさとに還元しようという思いを胸を打たれました。これからもがんばってください。ありがとうございました。

○座談会を終えて